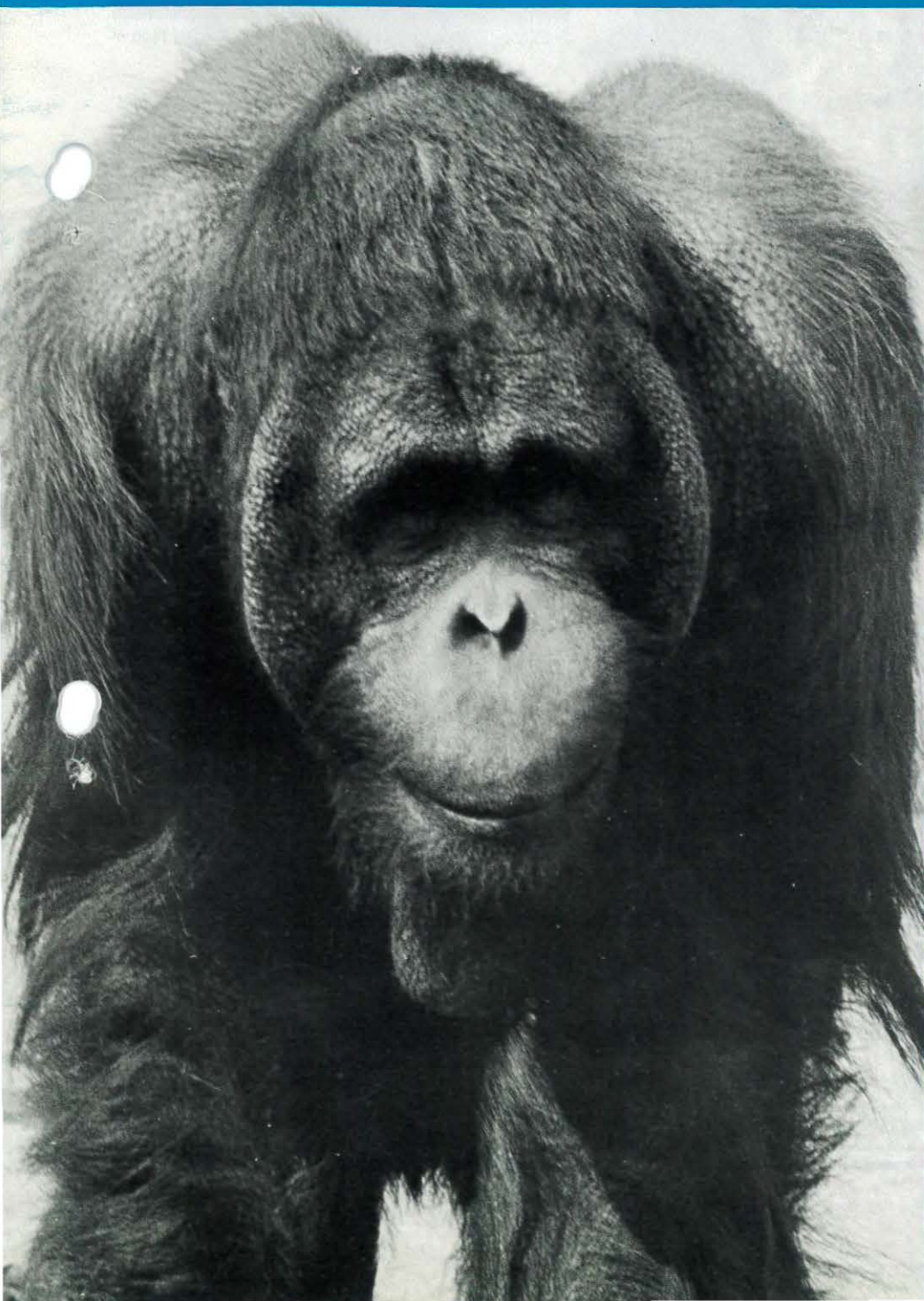


# なきごえ



1979

4

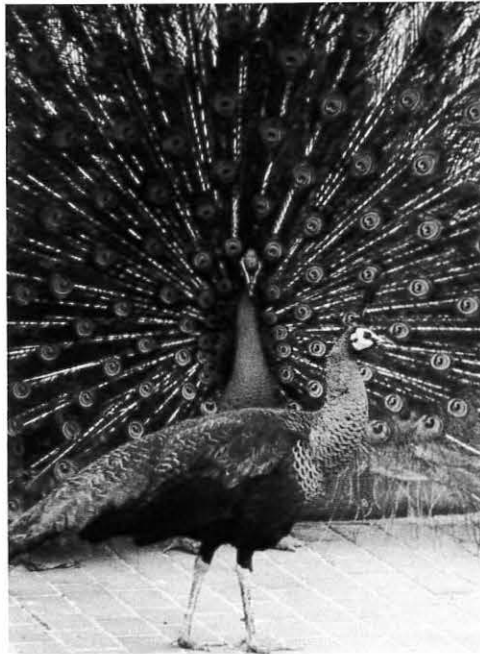
大阪市  
天王寺動物園協会

# 動物園グラフ

## “キジのディスプレイ”

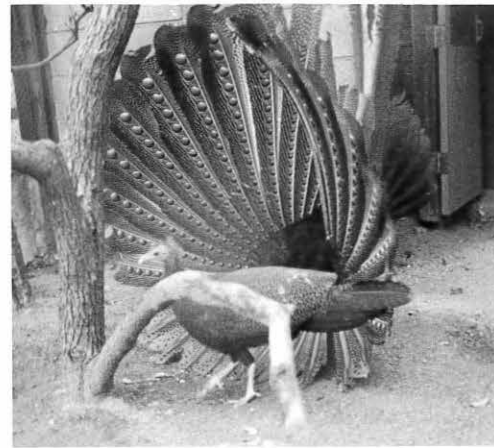
春の訪れと共にキジ類の産卵が始まりましたが、それに先立ってキジ類のオスの特徴あるディスプレイが北園キジ舎の随所で見られるようになりました。今回はこのキジの仲間の美しいディスプレイをグラフで特集してみました。

(撮影：宮下 実・大川 光雄)



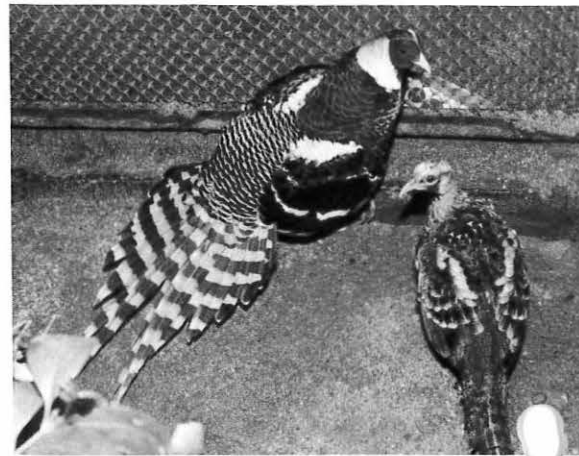
マクジャク

オスは上尾筒をひろげると美しい眼状紋の羽が放射状にのびます。



セイラン

次列風切羽には美しい目玉模様があり、ふだん地味なこの鳥も羽をひろげるとくほどもごとです。



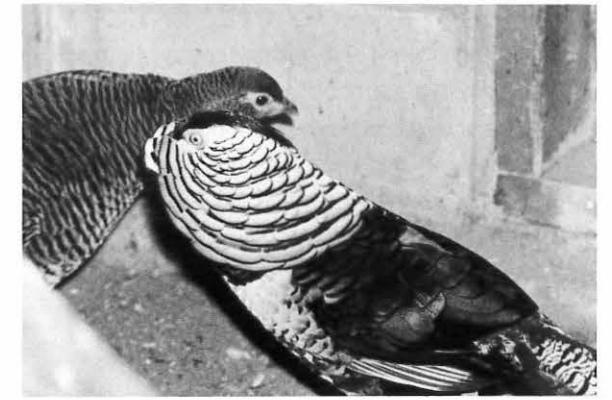
カラヤマドリ

尾羽をひろげ、腰の縞模様をくっきりみせます。



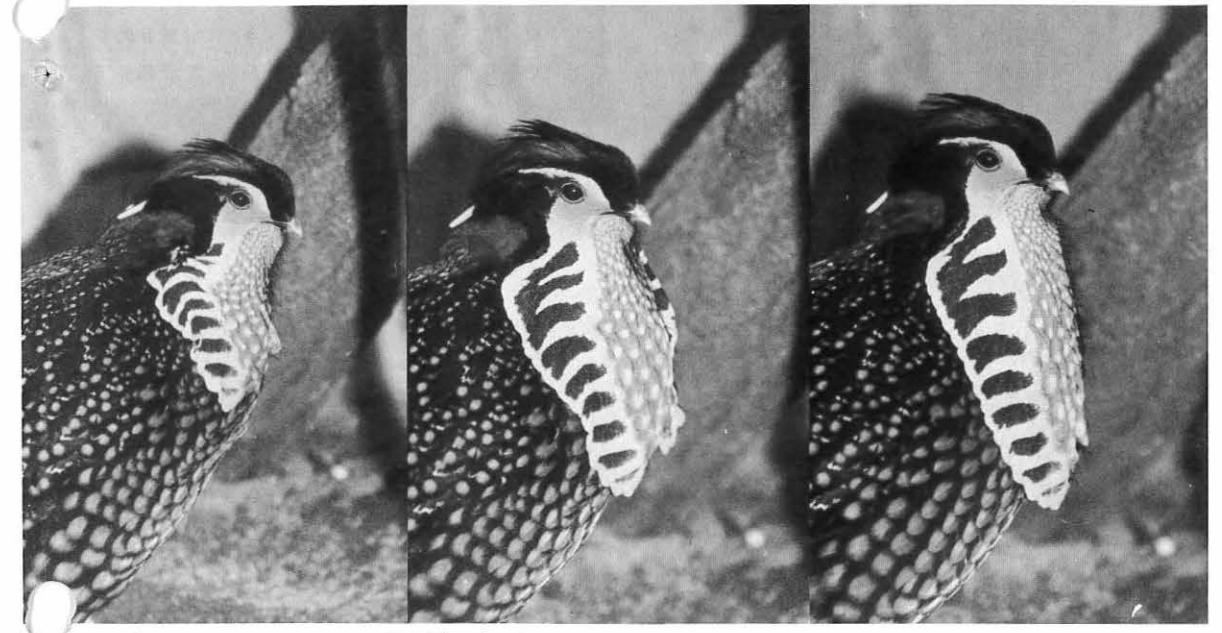
シマハッカク

頬の部分の肉垂を大きく広げ、鮮やかな赤色が印象的です。



ギンケイ

首すじの飾り羽を広げ、マスクでもしたようです。



ベニジュケイ

のどの部分にある青色の膨張性の皮膚を長くのばします。赤と青のコントラストが鮮かです。

## 2・3月の動物園日記

- 2/8. ジャングルキャットの赤ちゃんは、3頭と確認されました。  
ニジキジがペアで入園しました。
13. クロエリハクチョウが2卵産卵しているのを発見しました。
17. メスのハナグマがオスに爪でひっかかれて背中に大ケガをしたため、手術をし、33針も縫いました。
18. アカカンガルーが胃潰瘍で死亡しました。
19. 昨年10月に生れたキリンの赤ちゃんは、

- ずっと父親やお姉さんキリンと別居させていましたが、初めて運動場でいっしょにさせました。
- ビューマの赤ちゃん2頭が出園しました。
21. イワトビペンギンがふ化しました。ふ化日数は36日でした。
22. 昨日につづきイワトビペンギンの2卵目がふ化しました。
24. アカカンガルーの仔が袋から時々、外へ出るようになりました。
26. 昨日生まれた赤ちゃんヤギ3頭のうち、1頭が弱っているため、入院させて人工哺育

することにしました。

27. ジャングルキャットの赤ちゃん1頭が、圧死しました。  
2番目にふ化したイワトビペンギンが死亡しました。
28. 韓国のカササギ4羽が寄付されました。
- 3/1. マレーバクのメスが鼻水を出しているため治療しました。
2. フライイングケージに、シュバシコウのための巣材を入れました。
3. お昼にフタコブラクダの赤ちゃんが誕生しました。おひな祭りに生まれたのでヒナコ

ちゃんと名付けました。

4. ラクダのお母さんは知らんかおしてミルクを飲ませないため、人工哺育することに決めました。
7. コヨーテが6頭出産しました。  
お母さんラクダがすっかり食欲をなくしているため治療をしました。
10. 2月2日にふ化したイワトビペンギンが残念なことに衰弱死しました。
12. アライグマが2頭出産しました。
15. マントヒビの出産が近いため、オスと別居させました。



## 動物園生活27年（中）

その後、昭和36年4月より動物園改造5ヶ年計画が、総工費3億5千万円で、都市の動物園では珍しい無柵式放飼場の動物舎の建設にとりかかりました。その間、寺内信三園長が昭和37年2月1日で退職され、和田辰己園長が就任されました。工事は着々と進み、昭和40年までに装いも新たに現在の動物園の姿になりました。



① 建設中のカモシカ園 ② 建設中のゴリラ舎  
③ 建設中の類人猿舎



完成したハ虫類舎

今までの動物園の発刊誌として「動物園だより」引続き「動物園あんない」を発刊していましたが、何かもっと動物園らしい斬新な名前をつけようとい



うことで、園長賞つきで全職員より募集したところ、たくさんの応募のなかから、私の応募した「なきごえ」という名称が採用決定し、現在まで動物園唯一の月刊誌として15年発刊してきています。私の退職



後も皆さんで頑張って続けて下さることと思います。

昭和37年5月1日、ボルネオ産のオランウータン雄雌各1頭が入園し、ゴリラ舎の隣室が空いていたので、そこに収容することにし、1年位元気に飼っていましたが、そのうち、やや動作が緩慢になってきました。そもそも、オランウータンは活発な動きをしない動物なので、観察するたびによく注意して、



食欲状態等、日誌をつけて健康状態を診ていましたが、体重も推定40～50キログラムもあり、なかなか接触できず、薬を餌にまぜても吐き出す始末で、そのうちなんとなく痩せてきました。じつとずくまる時間も長く、咳も時々するし、段々と悪くなるばかりなので、心の内では結核を疑っていました。触診も注射も出来ないため、困りはてて栄養食や栄養剤の添加をしておりましたが、昭和39年1月14日に雌が死亡しました。雄も食欲が余りかばしくなく、亡くなった雌の解剖の結果、肺結核と判明したため、雄にも感染しているのは確実と思われました。ストレプトマイシンの注射を実施するにあたり、現飼育主任辰野勇さんが当時の担当だったので、係員2名で、捕獲網を使ってオランウータンを捕え、押さえこんで、朝夕2回の注射を3ヶ月間行う計画をたてました。第1日目は網をかぶせるのを慎重にし、オ

ランウータン自身も何をされるのか分からないので、余り抵抗もなく割合に簡単に注射することが出来ました。この分だと安心して注射可能と、夕方と同じ方法で、動物舎に入って網をかぶせようとした時、

注射の痛みをおぼえていたのか、あばれ回って、どうしても注射をさせませんでした。そこで1日に2回も注射することは大変なので



オランウータンのショックも軽減せねばと考え、1日1回に決め、始めのうちはやや無理をしても網をかけ、オランウータンを押えて注射を続行しました。毎朝毎朝それは大変な難行でしたが、3週間過ぎた頃には、食欲が出て来だし、元気になってきました。1ヶ月目位からは、オランウータンも余り抵抗もせず、ただ目をキョロキョロしているだけで、注射をいやがらずにさせるようになり、大変助かりました。あきらめムードのうちに3ヶ月間で注射をうちきりました。活動も活発になり、室内の天井にぶらさがったり、食欲ももりもり出て来ました。私

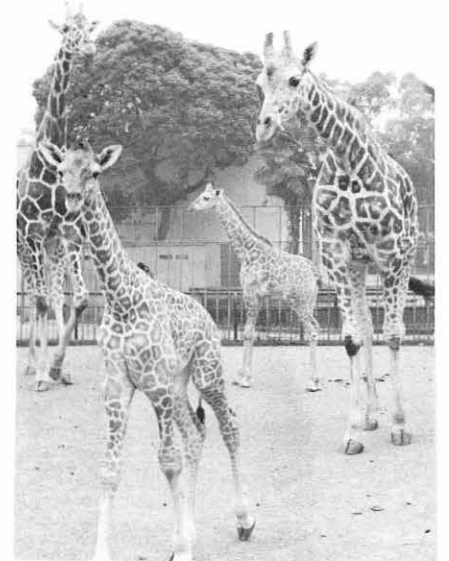


診療中の筆者

達は本当に苦勞のしがいがありました。

キリン舎も建設され、昭和34年5月23日に一番のキリンが入園してきました。最近定年退職されました南園前飼育主任泰松好雄さんが、このキリンを我が子のように、一生懸命育成され、日々の苦勞が実のり、天王寺動物園で初めて繁殖に成功しました。

このキリン夫婦から3頭の赤ちゃんが誕生し、その2世のキリン2頭もすでに7頭出産しています。こ



のキリン夫婦の雌が、入園者の不心得により、ビニール公害のため、食欲不振におちいり、日一日とやせてきて、栄養不良、衰弱の経過をたどり死に到りました。このキリンの解体解剖の際、4人の獣医とキーパーの補助で次々と解体にとりかかりました。作業中、保定のロープがゆるみ、キリンの大きな足が転倒してきた瞬間、私達剖検者がとっさに逃げたのですが、運悪く同僚の解剖刀が私の左手の第一指と第二指の間にグサッとささり、骨にたっするまでの裂傷を受けました。ほんの一瞬の出来事だったので誰も気づかず、「オーッ」と悲鳴をあげたのに誰もが果然とつっ立っているだけで、私がケガを受けたとは思わなかったようです。私の左手から鮮血が流れているのを見て、至急に止血をしてもらい、現南園飼育主任楠本信治さんに大阪市立附属病院整形外科にかつぎこまれ、縫合治療を受けましたが、第一指機能不能となりました。今後も色々な動物の治療、診察、解剖等に際しては、細心の注意が必要であることに心に置いて仕事をするのが肝心だと思います。まあ右手でなくて不幸中の幸いでした。入院中にオランウータンの雄の死亡の悲報を知り、残念でなりませんでした。

紙面の都合上あまり詳しく書けませんので、又次号に続けさせて頂くことをお許し下さい。

(元飼育係長：米田 敏光)





## 獣医室から ②1

臨時託児所大にぎわい!

2月末からヤギとメンヨウの出産が相つぎ、あめでラッシュが始まりました。ヤギが2月25日に三仔、四仔と計7頭生まれたのを始めとして3月3日までに11頭生まれ、メンヨウが2月23日の双仔を始めとして3月10日までに5頭生まれました。引き続き3月3日にフタコブラクダ1頭、3月13日にパーバリーシープの双仔と、園内は赤ちゃん誕生のほほえましい光景が随所で見られるようになりました。しかし過剰出産?がたたったのか、まず2月25日生まれの四仔のヤギの1頭(オス:愛称メメ)が他の3兄弟とのミルク飲み競争に敗れ――ヤギの乳汁の産乳量は普通2つしかないため――衰弱が激しくなり、研究室に3月1日収容しました。収容時は体温も低下し、ムシの息といった状態でしたが、保温し強心剤、栄養剤の投与によりどうにか危機を脱することができました。最初はカテーテルを胃内まで通して強制的にミルクを与えていましたが、2日目からは哺乳ビンから自力で飲むようになりました。

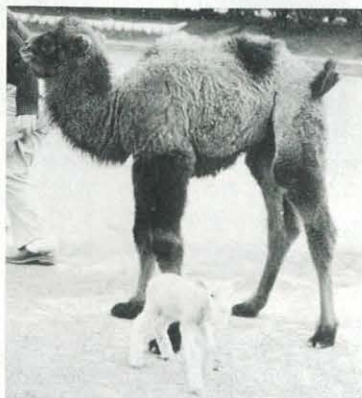
3月10日に生まれたメンヨウ(オス:愛称ガリ)は母親が全く世話をせず、翌日死んだように冷たくなって倒れているのを発見し、急ぎよ研究室に収容し手当をしました。このメンヨウもヤギのメメと同じく、2日間はカテーテルでミルクを強制的に飲ませ、3日目からどうにか自力で飲めるようになりました。ヤギとメンヨウが一段落ついたと思ったら、



哺乳中のヤギとメンヨウ

3月13日に生まれたパーバリーシープの双仔の内

1頭が虚弱児のため、これも又、研究室収容ということになり、研究室はまさに臨時の託児所になってしまいました。その上、3月3日に生まれたフタコブラクダ(メス:愛称ヒナコ)も人工哺育中で、この赤ちゃんも1日1回の体重測定のため、閉園後の園内散歩の途中研究室に立ち寄り、夕方は4頭の赤ちゃんで大にぎわいとなります。にぎわうだけならよいのですが、時に下痢気味の日もあり、室内の床には下痢便があちこちノふき取る後から他の場所にポトリ……、おむつでもあててやりたくなくなったほどです。



園内散歩中のラクダとメンヨウ

パーバリーシープは残念ながら3日目に死亡しましたが、残る人工哺育中の3頭は元気一杯です。ヒナコもメメもガリも日ごとに哺乳量、体重、共に順調に増加しています。しかしヤギのメメが元気あまって研究室の机に跳びのって書類をめちゃくちゃにしたり、コップを落として割ったりで、とうとうこの臨時託児所では預かりきれないようになってきましたので、3月20日頃、親のもとへ戻す予定です。折から卒業式たけなわの今、メメもメンヨウのガリも健康優良児で、この臨時託児所を卒業してくれることでしょう。それまでは研究室の汚れも混雑もガマン、ガマン……。

(飼育課:宮下 実)

## 動物園ニュース

### § 出産ラッシュ始まる

年が明けてから、もう春のような陽気が続いた今年ですが、2月23日のヒツジ誕生を皮切りにいよいよ出産シーズンが幕を開けました。

まずヒツジですが、2月23日に2頭、3月2日、5日、10日と各1頭、合計5頭生まれました。2月23日に生まれた内の1頭が弱くて死亡しましたが残りの4頭は元気一杯です。

お隣のヤギ舎ですが、2月25日に7頭、28日1頭、3月2日に2頭、3日1頭、と合計11頭が生まれました。



内、25日に生まれた7頭の内2頭が死亡したので残り9頭が元気にしています。

また2月25日生まれのヤギ(メメ)と3月10日生まれのヒツジ(ガリ)は衰弱がひどくて研究室に入院しましたが、今ではすっかり元気になり、毎日イ

でやっと生まれました。そのせいか体が弱く、ラクダの仔は普通2時間もあれば立てるのですが5時間待っても立てませんでした。そこで獣医師2名と係員とで支えて立たせ、ヤギのミルクを飲ませました。強制的に立たせののが良かったのか翌日からはビョンビョンはねまわる程元気になりました。母親の体の具合が悪く、人工哺育をしていますが、とても元気です。

3月7日には中獣舎のコヨーテが出産しました。昭和51年には2頭、53年には4頭でしたが、今年は6頭でした。育児慣れた母親ですので子供達は順調にスクスクと育っています。

3月12日にはアライグマのロージーが出産しました。頭数はまだ不明ですが、この号が出るころにはかわいい姿をご覧いただけたと思います。3月13日、



14日それに22日にパーバリーシープが出産しました。合計5頭で1頭は死産、2頭は衰弱

## くらしを彩るショッピング



**近鉄百貨店**

アベノ店(06)624-1111・上本町店(06)779-1231  
東京近鉄(0422)21-3331

・近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜  
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)



## 獣医室から ②1

臨時託児所大にぎわい!

2月末からヤギとメンヨウの出産が相つぎ、あめでラッシュが始まりました。ヤギが2月25日に三仔、四仔と計7頭生まれたのを始めとして3月3日までに11頭生まれ、メンヨウが2月23日の双仔を始めとして3月10日までに5頭生まれました。引き続き3月3日にフタコブラクダ1頭、3月13日にパーバリーシープの双仔と、園内は赤ちゃん誕生のほほえましい光景が随所で見られるようになりました。しかし過剰出産?がたたったのか、まず2月25日生まれの四仔のヤギの1頭(オス:愛称メメ)が他の3兄弟とのミルク飲み競争に敗れ――ヤギの乳汁の産乳量は普通2つしかないため――衰弱が激しくなり、研究室に3月1日収容しました。収容時は体温も低下し、ムシの息といった状態でしたが、保温し強心剤、栄養剤の投与によりどうにか危機を脱することができました。最初はカテーテルを胃内まで

1頭が虚弱児のため、これも又、研究室収容ということになり、研究室はまさに臨時の託児所になってしまいました。その上、3月3日に生まれたフタコブラクダ(メス:愛称ヒナコ)も人工哺育中で、この赤ちゃんも1日1回の体重測定のため、閉園後の園内散歩の途中研究室に立ち寄り、夕方は4頭の赤ちゃんで大にぎわいとなります。にぎわうだけならよいのですが、時に下痢気味の日もあり、室内の床には下痢便があちこちノブき取る後から他の場所にポトリ……、おむつでもあててやりたくなつたほどです。



園内散歩中のラクダとメンヨウ

## 動物園ニュース

### § 出産ラッシュ始まる

年が明けてから、もう春のような陽気が続いた今年ですが、2月23日のヒツジ誕生を皮切りにいよいよ出産シーズンが幕を開けました。

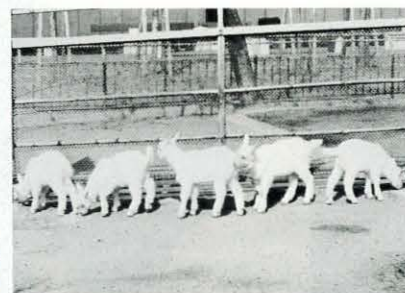
まずヒツジですが、2月23日に2頭、3月2日、5日、10日と各1頭、合計5頭生まれました。2月23日に生まれた内の1頭が弱くて死亡しましたが残りの4頭は元気一杯です。

お隣のヤギ舎ですが、2月25日に7頭、28日1頭、3月2日に2頭、3日1頭、と合計11頭が生まれました。



内、25日に生まれた7頭の内2頭が死亡したので残り9頭が元気になっています。

また2月25日生まれのヤギ(メメ)と3月10日生まれのヒツジ(ガリ)は衰弱がひどくて研究室に入院しましたが、今ではすっかり元気になり、毎日イタズラばかりしています。



現在ヤギ舎に9頭、ヒツジ舎に3頭と隣り合わせのセクションで計12頭ものチビちゃん達が元気走りまわっています。御来園の際は是非このかわいい12頭のチビちゃん達をご覧ください。



3月3日の桃の節句にはフタコブラクダにメスの赤ん坊が生まれました。ヒナ祭りになんで「ヒナ子」と名付けられたこの子は難産でしたので、獣医師の助産

でやっと生まれました。そのせいか体が弱く、ラクダの仔は普通2時間もあれば立てるのですが5時間待っても立てませんでした。そこで獣医師2名と係員とで支えて立たせ、ヤギのミルクを飲ませました。強制的に立たせののが良かったのか翌日からはピョンピョンはねまわる程元気になりました。母親の体の具合が悪く、人工哺育をしていますが、とても元気です。

3月7日には中獣舎のコヨーテが出産しました。昭和51年には2頭、53年には4頭でしたが、今年は6頭でした。育児慣れた母親ですので子供達は順調にスクスクと育っています。

3月12日にはアライグマのロージーが出産しました。頭数はまだ不明ですが、この号が出るころにはかわいい姿をご覧いただけたと思います。3月13日、



14日それに22日にパーバリーシープが出産しました。合計5頭で1頭は死産、2頭は衰弱のため死亡しましたが残った2頭は生後1時間程で立ちあがり、けわしい山をピョンピョンと元気一杯にかけまわっています。

### § 産卵はじまる

哺乳類に負けてはならじと鳥類も産卵をはじめました。2月26日のサンケイが第1号です。これからキジ類が続々と産卵をはじめます。昨年は約600卵でした。また、ツル類、ヨーロッパコウノトリ、フラミンゴ、などの産卵ももうすぐです。

### § 近畿ブロック獣医並びに飼育者研究会開催

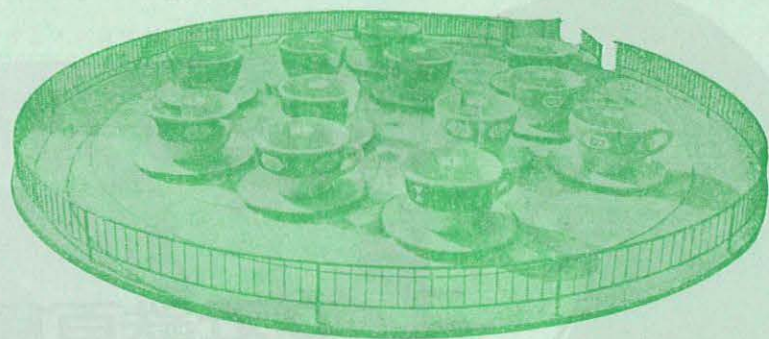
昭和53年度第3回のブロック研が2月26日開かれました。出席者は10園24名で終日、熱心な研究発表がなされました。

### § 第2回飼育研究会開催

第2回目の飼育研究会が2月22日開かれました。発表演題は3題で三浦係員、野口係員、長瀬獣医からの発表がありました。

毎月第3月曜日は休園日です。7月までの休園日は下記の通りです。  
4月16日、5月21日、6月18日、7月16日。  
開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売止めになります。

## 遊園施設委託経営・製作・販売



## 久竹娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号  
電話 大阪(06)541-3112・3938 番



なきごえ 昭和54年 4月15日発行(毎月1回15日発行)

編集／大阪市天王寺動物園

発行人／大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所／株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

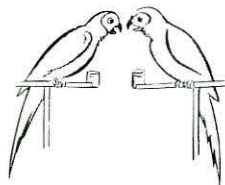
第15巻第4号(通巻164号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

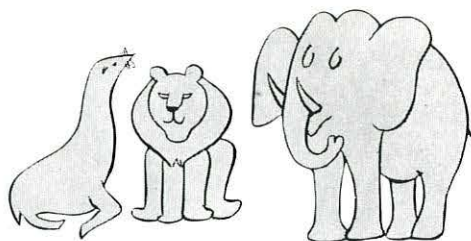
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地

電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地

電話(078)241-3494



自然の  
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



# 雪印ヨーグル

各130c.c.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・前木 妙子・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志  
石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・霞谷 文彦・仲谷 登